

道徳の時間で活用する ～生命の尊さ～

上関町立上関中学校 古六 尚子

1 本場面におけるポイント

- 「私たちの道徳」を事前指導で活用することにより、ねらいとする道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方について関心を高める。
- 自分自身のものの見方、考え方、感じ方などを確かめたり、まとめたりすることで、自分を振り返り、その時間に学習した道徳的価値をはっきりさせる。

2 授業の実際

1 主題名 生命を考える

「資料名 命のリレー（出典 日本標準 みんなと生き方を考える道徳）」

2 ねらい

戦争という極限状態を生き抜いた祖父の人生に思いをはせ、生命の連続性、生命の尊さを感じ取り、前向きに生きる心情を育てる。

3 事前指導と事後指導

(1) 事前指導 「私たちの道徳」のP98～P101を読む。

- 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

生命の三つの側面である「偶然性」「有限性」「連続性」について、今、自分が最も関心があるものはどれか、理由も含めて書かせることにより、命の尊さについて考える方向性をもたせるようにする。



(2) 事後指導 性に関する教育講演会

- 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

性について考えるということは、生命を考えるそのものであり、自分の生き方を考えることである。性に関する講演会で学んだことを重ね合わせて、生命のかけがえのなさを実感できるようにする。

4 展開

(1) 導入 第二次世界大戦中に起こった沖縄戦の事実を出し合う。

- 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

知っていること、聞いたことがあることなどをいくつか出し合って、沖縄戦のイメージをふくらませる。(沖縄戦に関するDVD視聴)

(2) 展開 詩「写真の中の少年」と一枚の写真をもとに話し合う。

教師：少年はどんな生活をしていたのか。

生徒：食料・衣類がない生活で、服はボロボロになっている。

生徒：大変ひもじい生活。極限の生活。
 教師：少年は一点を見つめ、何を思っているのだろう。
 生徒：死ぬかもしれないという覚悟を決めている。
 生徒：家族を守りたいと思っている。
 教師：詩を書いた匹田さんは、この写真から何を感じ取ったのだろう。
 生徒：祖父がこのような状況で、生きていてくれたことをありがたいと思う。
 生徒：諦めず生き抜いてくれたことに感謝。引き継がれた命を大切にしなければ
 ならない。
 教師：「命のリレー」という言葉に、匹田さんはどういう思いを込めているのだろ
 う。
 生徒：祖父が生きていてくれたから今ここに僕がいるのだ。
 生徒：「命のリレー」のバトンに例えたのだ。落とさず、次に引き継がないといけ
 ない。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

詩は、祖父から聞いたことをもとに、祖父の思いと孫である自分の思いが重ねら
 れてつくられたものである。「命のリレー」という思いは、戦争をはさんで生を受
 けた祖父と孫の決意でもあることを押さえたい。

(3) 終末 生命の尊さについて考えたことを書いてみよう。

教師：授業を通して、生命の尊さについて考えたことをまとめ
 てみよう。
 生徒：戦争の中で生き抜いた人たちが命をつないできてくれた。
 生徒：自分が今いるのは、家族のおかげだ。生命を大切にしま
 うと思った。
 生徒：私の御先祖も戦争を体験していると思うけど、命をつな
 いでくれたおかげで私もいるのだと思う。御先祖様に感
 謝したいと思う。



□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

「私たちの道徳」P105に今日の授業で感じたこと、考えたことなどを書き込む。
 かけがえのない生命を大切にするために、日々の生活の中で心掛けようと思うこと
 などを決めて実践に生かすようにする。

3 実践を振り返って

「私たちの道徳」P98～P101にある生命の三つの側面、すなわち自分が今ここにいる
 ことの不思議（生命の偶然性）、生命にいつか終わりがあること（生命の有限性）、
 生命はずっとつながっていること（生命の連続性）を深く考えさせることによって、
 自他の生命を尊重する態度を身に付けさせ、生かされていることへの感謝や、一人だ
 けの生命ではなく、過去から未来へとつながる生命なのだとは自覚させることができる。
 授業後の生徒の感想の中には、自分がこの世に誕生したことの喜びとその価値、今あ
 る命は自分一人のものではなく、ずっと受け継がれ、次の走者にバトンを託さなけれ
 ばならないという使命をもっていることを自覚する生徒も多かった。

授業後、思春期の体や心についての講演会を行った。生徒の感想の中には、『生命
 の大切さ』、性に対する思いは変わった」「自分の体と生命を大切にしていきたい」と
 いう感想が多かった。事前に、「私たちの道徳」を活用したことが、ねらいとする道
 徳的価値に対する考えを深めることにつながったように思う。

